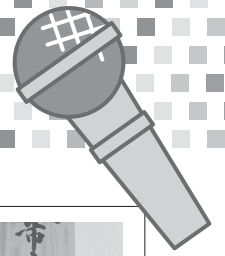


新規採用教員へのインタビュー



石井 大晴 いしい たいせい

倉敷市立万寿小学校 教諭
(令和5年度採用)

自己紹介

令和4年度に実施された教員採用候補者選考試験では、中学校教諭(保健体育)で合格をいただき、令和5年度から新採用の小学校教諭として採用になりました。

もあり、中学校志望で採用試験も受けたので、正直不安もあり、驚きもしましたが、今となってはありがたいなと思っています。小学生は一言声をかけただけで動きが大きく変わるなど、スポンジのようにいろいろなことを吸収していくので、指導のやりがいもとても感じています。

体育主任の先生を中心にたくさん先生が日々声をかけてくださって、前向きに勤務に取り組んでいます。

Q 日々の勤務の様子について教えてください。

授業は週あたり23時間もっており、5、6年生計9クラスの体育を担当しています。授業準備は大変ですが、「初めから誰でもうまくできるわけじゃないし、一緒に頑張っていく」と先輩の先生に言ってもらい、単元ごとに各クラスの担任の先生と打合せを密に行い、計画を立てています。授業は一人で行いますが、支えてくれる先生方がいるというのはとても心強いです。

また、初任者研修は小学校教諭として受講しています。そのため、校内で示範授業を見せていただいています。児童への声かけのタイミングや指導法など、国語や算数の授業からも得られるものは多く、体育の授業で生かせることがないかという視点で臨んでいます。

Q 小学校での勤務はいかがですか？

中学校の先生に憧れたということ

Q 教員を目指した理由を教えてください。

中学校で陸上部に所属していて、そこで出会った先生に憧れをもったのが大きなきっかけです。顧問の先生でもあり体育の先生でもあったその先生は、いけないことをすればしっかりと叱ってくれ、嬉しいことがあれば自分事のように喜んでくれました。私もそんな先生みたいになりたいと思います、明確に教員を目指すようになりました。

Q 体育の授業ではどのようなことを大切にしていますか？

小学校の体育の授業は、遊びを中心に展開されていくとこれまでも学んできました。その種目の面白さを感じられる「挑戦課題」を設定することを大切にしています。児童の主体的な学びにつながるようにしたいです。

Q 自分が試技を見せることが大切だと思っていました。ある授業で児童の「○○さんすごく上手！」という発言から、児童にお手本を任せて、それをもとにポイントを整理するという授業展開をしたことがあります。児童自らの発見だからか、他の児童の理解もより深まり、記録も伸びました。児童の力を借りてできたその授業は、とても手ごたえを感じたのを覚えています。

担任をもっていないので、朝の会や給食の時間には、職員室にいます。ですが、積極的に校内を見て回るようにしています。授業であまり声かけができなかった児童にそこで声をかけたり、高学年以外の児童ともかわつたりすることができています。授業では見られない一面を見ることができ、そこで見られた良さを授業でも引き出したいと思っています。また、授業はできないですが、出張で担任の先生が不在のクラスの給食指導に入ったり、補教に入ったりすることもあります。下校時刻には校門に立ち、児童を見送るようになっています。授業以外でもかかわる機会をなるべく多く持ちたいと思っています。

Q 今後の意気込みを教えてください。

私の使命は小中連携だと思っています。小学校を卒業する時に、子どもたちが「体育が大好き」という状態にして、中学校に送り出したいです。

スポーツは「見る」「支える」などのいろいろなかわり方があって、するのが苦手でも、スポーツに対して何らかのかわりをもって、楽しいなと思えるようにしたいと考えています。それがその先の生涯スポーツにつながると思うので、小学校段階でその土台を作りたいです。

Q 最後に、教員採用試験の受験を考えている方々へ、専科教員として採用された先生ならではのメッセージをお願いします。

子どもたちは素直でとてもかわいく、日々楽しく頑張ることができています。中学校教諭として採用され、初任校で小学校の専科教員として配置されることは、今後中学校の教員になる上で絶対にプラスになると思います。最初は不安だと思いましたが、前向きに楽しんで、頑張っしてほしいと思いますし、私も頑張ります！